映画『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』×行方市

第15回ロケーションジャパン大賞 部門賞「撮影サポート部門」受賞

ロケ地情報誌「ロケーションジャパン」が主催する、1年で最も地域を盛り上げた作品とその地域を表彰する「ロケーションジャパン大賞」の部門賞「撮影サポート部門」に、市内で撮影が行われた映画『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』が選ばれました。県内自治体では6年ぶりの受賞となります。

2月20日（木）に都内で行われた授賞式には、成田 洋一監督と、鈴木 周也市長が登壇し、受賞の喜びを語りました。

受賞のポイント

廃校でのオープンセット建設・火事シーンの協力等が制作者より評価
廃校や広大な敷地など制作者が求めるロケ地提供や地元消防団等の撮影協力

ロケ隊へ地元食材の炊き出しや健康メニューを提供
地元JAや「行方市食生活改善推進員協議会」が協力する地元食材の炊き出し等の協力体制が評判

ロケ地で上映イベント・パネル展を実施
作品はSNSでZ世代を中心に大ヒット！興行収入も45億円超えとなり、幅広い世代に人気！

第15回ロケーションジャパン大賞 詳細はこちら

ロケーションジャパン
2025年4月号
販売中
（発売日：3月14日）

◀ホームページはこちらから
https://locationjapan.net/newss/lj15/

インタビュー

成田 洋一 監督

重要なシーンである学校のシーンを廃校で撮ることができただけでなく、オープンセットを建てられたのが助かりました。炊き出しや、焼き芋の差し入れなど、いろんなおいしい物をいただきました。担当の方の笑顔など、過酷な撮影の中でも、人情を感じることができたのがありがたかったです。

松竹株式会社　西 麻美 プロデューサー

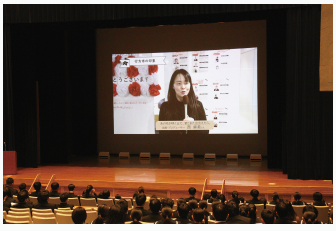
行方市は、都内から2時間以内で行けること、火を使う撮影ができたことなど、撮影しやすかったところが印象に残っています。撮影の度にいただく差し入れが日々の活力になっていました。地元の食堂の方と役者さんが、協力して豚汁を作ってくれたのが、寒い撮影の中ではうれしく、良い思い出です。

▲3月29日（土）に開催された市内上映会の案内

令和6年度 芸術鑑賞教室で映画『あの花』を上映しました

3月6日（木）、市内中学生を対象に実施された、令和6年度 行方市芸術鑑賞教室で、映画『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』を上映しました。

上映前には、成田 洋一監督と西 麻美プロデューサーによる、中学生へ向けたメッセージが流れました。また、3月29日（土）には、一般向けの市内上映会を開催しました。



写真提供：ロケーションジャパン

▲写真前列左から 人事院 米村猛さん（プレゼンター）、成田洋一監督、鈴木周也市長、行方市食生活改善推進員協議会 真家栄子会長
写真後列中央 松竹株式会社 西麻美プロデューサー

作品の視聴方法

Blu-ray&DVD、デジタル配信（amazon prime video、hulu、U-NEXT ほか）

映画「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」公式サイト
https://movies.shochiku.co.jp/ano-hana-movie/

行方市ロケ地マップ vol.1
「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」編

◀多言語配信ツール「カタポケ」で配信中！

芸術鑑賞教室の感想

とにかく泣ける！特攻隊は、いつ出発するか分からないこの怖さで過ごしてたことを知ると、今を大事にしなきゃなって思いました。

ほんとに行方市で撮影したのかってくらい風景やシチュエーションもすごくよかったです。この映画を見て戦争はどんな理由があっても、やってはいけないと思いました。

街並み

特攻隊員たちが戦闘機に乗って出撃するシーンは、旧玉造小学校のグラウンドで撮影され、市民もエキストラとして参加しました。

方々をきちんと、紹介、評価したかった気持ちです。

Q3.行方市へメッセージをお願いします。

本作品を通して、多くの出会いがあり、映画以外にも関係が広がりました。今後もたくさんの作品を通じて、皆さまと多くの思い出作りができればと思っております。ありがとうございました。

ロケ地エピソード

鶴屋食堂などが並ぶ街並みは、旧北浦三育中学校のグラウンドに建設されたオープンセットを使って撮影されました。セットに使われている飾りは、地元住民の方々からご協力いただいて作成したものも多くありました。空襲のシーンでは実際にセットに火をつけて撮影している場面があり、行方市消防団が消火活動に協力しました。

撮影の合間には、行方市食生活改善推進員による炊き出しが行われ、地元特産品をふんだんに使った料理がスタッフへふるまわれました。出演者の差し入れ調理の際には、地元業者が協力する場面もありました。撮影終了後にはオープンセットでバーベキューが催され、撮影スタッフと地元協力者が交流を深めました。

※『行方市ロケ地マップ vol.1「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」編』に掲載されている内容です。

あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。

SNSを中心に「とにかく泣ける」と話題を集めた汐見夏衛の同名ベストセラー小説を映画化。現代の女子高生と特攻隊員の青年の切ない恋の行方を描いたラブストーリー。親にも学校にも不満を抱える高校生の百合は、進路をめぐって母親とケンカになり、家を飛び出して近所の防空壕跡で一夜を過ごす。翌朝、百合が目を覚ますと、そこは1945年6月…戦時中の日本だった。

■主演／福原遥、水上恒司
■出演／伊藤健太郎、嶋﨑斗亜、上川周作、小野塚勇人、出口夏希
坪倉由幸、津田寛治、天寿光希、中嶋朋子／松坂慶子
■主題歌／「想望」福山雅治（アミューズ／Polydor Records）
■原作／汐見夏衛「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」（スターツ出版文庫）
■監督／成田洋一　■脚本／山浦雅大　成田洋一　■音楽／ノグチリョウ
■制作プロダクション／ダーウィン
■製作／「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」製作委員会
■配給／松竹

01 百合の通う高校

主人公の百合が通う高校の教室シーンは、旧北浦三育中学校の校舎で撮影されました。

百合や特攻隊員たちの憩いの場として登場した「鶴屋食堂」は、旧北浦三育中学校のグラウンドに建設されたオープンセットを使って撮影されました。作品の時代設定に合った食堂を忠実に再現し、行方市産のサツマイモなども小道具として使用されています。

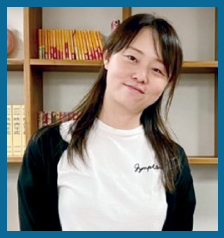
03 鶴屋食堂

02 空襲と

本作で多く登場する街並みの風景は、旧北浦三育中学校のグラウンドに建設されたオープンセットを使って撮影されました。空襲で街から火があがるシーンは、実際にセットに火をつけて再現し、行方市消防団の立ち会いのもと撮影が行われました。

04 特攻隊の出撃

インタビュー



松竹株式会社
プロデューサー
西　麻美 氏

Q1.この映画の見どころについて教えてください。
普通の女子高生がタイムスリップして戦時中の日本に行き、そこで戦争をリアルに体験することで、人として成長するというところです。話で聞くだけではなかなか理解できない戦争の恐怖や不条理さを、百合を通して追体験できるような作品になるよう、監督とも話しながら作り上げたので、そこが見どころだと思います。

Q2.撮影時の思い出や印象に残った出来事があれば教えてください。
空襲のシーンで、実際に火を使って撮影したことです。てっきり火事の火や空襲の爆破などはVFXなのかと思っていたら、実際に火を使い、爆破すると聞いて驚きました。撮影を許可してくださった行方市FCの皆さまには感謝でいっぱいです。

Q3.行方市へメッセージをお願いします。
今回は映画「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」の撮影で大変お世話になりました。行方市の皆さまのご協力で、素晴らしい作品を作ることができました。またぜひ、ご一緒できれば幸いです。

インタビュー

ダーウィン株式会社
ラインプロデューサー
湊谷　恭史 氏

Q1.行方市をロケ地に選んだ理由、良かった点を教えてください。
本作品は、戦中の時代設定で、セットを設営する必要がありました。設営する場所以外に資材置き場や撮影車両の駐車場、トイレや食事場などのインフラ環境含め、広い場所が必要であったこと。自然相手に早朝から深夜にいたる撮影に対応できる場所だったことが大きな要因です。

Q2.エンドロールクレジット「行方ユニット」の誕生秘話について教えてください。
海外作品に参加した際、国ごとスタッフ紹介をされていた体験を受け、本作品で、行方市のセットを中心に多くの参加された